

今治市大三島美術館 館藏品展「植物を描く」  
令和2年6月3日(水)～令和2年9月27日(日)

【小展示室】

	作者名	作品名	分類・形状	寸法 (cm)	制作年
1	伊藤 はるみ	春	紙本彩色	60.6 x 45.5	1995
2	渡辺 信喜	晨	紙本彩色	162 x 130.3	1985
3	西久松 吉雄	西瓜	紙本彩色	72 x 90.2	1983
4	太田 利花	風に吹かれて	紙本彩色	97 x 145.5	1996
5	山崎 佳代	くさかげ	紙本彩色	129.5 x 79.5	1996
6	渡辺 信喜	果樹	紙本彩色	175 x 130	1987
7	中島 千波	ますかっと	紙本彩色	75 x 27	1982

【大展示室】

8	宮元 政治	黄昏	紙本彩色	112 x 145.5	1991
9	青木 淑江	樹々の朝	紙本彩色	130.3 x 97	1996
10	梅原 幸雄	六月篋	絹本彩色	73 x 118.7	1982
11	林 潤一	南天図	紙本彩色	168 x 185	1985
12	川島 睦郎	藪かげ	紙本彩色	73 x 100	1982
13	石原 正人	山帰来	紙本彩色	119 x 104	1989
14	松崎 良太	樹	紙本彩色	162 x 129.5	1993
15	佐藤 光儀	帰路	紙本彩色	162.3 x 112.2	1989
16	山田 伸	朝	紙本彩色	128.5 x 129	1996
17	森山 知己	樹	絹本彩色	145.5 x 97	1992
18	寺師 範祐	雨のなか	紙本彩色	130 x 97	2001
19	渡辺 信喜	木の間	紙本彩色	162 x 112	1979
20	村田 茂樹	芦生六月	紙本彩色	116.7 x 116.7	1994
21	畠中 光享	梅檀と祠のある風景	綿布彩色	65.5 x 90.5	1984
22	佐々木 るり子	白い花・あかい実	紙本彩色	80 x 180	1989
23	加山 又造	火の島	絹本彩色	165.8 x 364.5	1961

【展示ケース】

1	新井 勝利	桃	素描	25 x 35.8	
2	宇田 荻邨	朝顔	素描	36.5 x 37	
3	宇田 荻邨	桃	素描	27.5 x 36.5	
4	松本 勝	いちじく	紙本彩色	27.3 x 24.3	
5	越智 雄二	蘭花	洋画	26 x 22.5	
6	森 守明	茄子図	絹本彩色	26.4 x 23.4	
7	菊池 芳文	流芳帳見聞	素描	11 x 15	

【田淵俊夫記念展示室】

	作者名	作品名	分類・形状	寸法(cm)	制作年
1	田淵 俊夫	大和秋色 月ヶ瀬	版画	31.5 x 29	
2	田淵 俊夫	大和秋色 大柳生一 I	版画	31.5 x 29	
3	田淵 俊夫	大和秋色 大柳生一 II	版画	31.5 x 29	
4	田淵 俊夫	四季六題 やまざくら	版画	32 x 41	
5	田淵 俊夫	四季六題 やまふじ	版画	32 x 41	
6	田淵 俊夫	四季六題 あさがお	版画	32 x 41	
7	田淵 俊夫	四季六題 ほおづき	版画	32 x 41	
8	田淵 俊夫	四季六題 すすき	版画	32 x 41	
9	田淵 俊夫	四季六題 たけ	版画	32 x 41	
10	田淵 俊夫	京洛心象 瀬音	下絵	91 x 116.5	
11	田淵 俊夫	京洛心象 煌煌	下絵	91 x 116.5	
12	田淵 俊夫	四季一飛鳥川秋色	版画	53 x 65	
13	田淵 俊夫	旅の窓から「緑雨」	版画	42 x 33.5	
14	田淵 俊夫	旅の窓から「萌える」	版画	42 x 33.5	
15	田淵 俊夫	旅の窓から「運河」	版画	42 x 33.5	
16	田淵 俊夫	旅の窓から「黎明」	版画	42 x 33.5	
17	田淵 俊夫	旅の窓から「橋」	版画	33.5 x 42	
18	田淵 俊夫	旅の窓から「夕照」	版画		
19	田淵 俊夫	旅の窓から「黄山」	版画		
20	田淵 俊夫	寒風	下絵	32.7 x 41.8	1979
21	田淵 俊夫	春萌ゆ	下絵	22.4 x 45.9	1987
22	田淵 俊夫	兆	下絵	93 x 68	1991
23	田淵 俊夫	割りしのぶ	版画	44.5 x 33	

田淵俊夫氏略歴：

1941年(昭和16)東京都江戸川区に生まれる。1967年東京芸術大学大学院修了。  
 1968年第53回院展に「ヨルバの神々」が初入選、71年春の院展で「秋宴」が奨励賞(以後6回受賞)、81年には外務大臣賞を受賞。また1971年には第15回シェル美術賞展で佳作賞受賞、78年「安曇野」が第1回東京セントラル美術館日本画大賞展優秀賞、79年「輪中の村」が第5回山種美術館賞展 優秀賞を得る。1982年第1回前田青邨賞、同年第67回院展で「流転」が日本美術院賞・大観賞、83・84年と連続奨励賞、85年には第70回院展で「叢叢讃歌」が2度目の日本美術院賞・大観賞を受賞し、日本美術院同人に推挙。1988年第73回院展では文部大臣賞、94年には「大地 I・II」で第79回院展内閣総理大臣賞を受ける。学生時代は心象風景を描いていたが、卒業後アフリカへ旅し灼熱の太陽のもとで逞しく生きる植物に感動したのがきっかけで雑草を描き始める。その後、大和などの風景を主題とし、80年代に入って再び草花を題材とすることが多くなる。近年は奈良の心象風景、旅窓から見た生活情景のほか、インドや中国、ベトナムなどを題材としている。精緻な線描と緑や青など淡い色彩を特色とする作品は叙情味を帯びて清く澄み、古典的な優美さを醸している。

1996年大三島美術館に田淵俊夫記念展示室がオープン。以後同館で個展開催。現在、日本美術院理事長。2019年文化功労者に選ばれる。

【応接室】

1	村上 佳苗	いつともしれんいつかまで	油彩	116.7 x 91	2012
2	村上 佳苗	大三島	油彩	45 x 35	2017
3	村上 佳苗	しまなみ	油彩	72 x 61	
4	村上 佳苗	みかん山	油彩	145.5 x 97	2010